

『見守りをデザインする』を読んで

大野隆造（元 東京工業大学）

■『見守りをデザインする』を読んで教えられたいいくつかのポイント

- 1) 見守り支援機器の功罪
- 2) 見守りのあり方の経時的変化
- 3) 見守りとプライバシー／「公私の領域」のとらえ方
- 4) 見守りの「主体」と「客体」のさまざまな関係

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から

- 1) 時間経過に伴う「看護り」のかたちの変化：最近の入院体験から
- 2) 性的マイノリティの見守りとプライバシー：男女共用トイレの適正配置の検討から
- 3) 過疎空間における「見守り」：農村計画学会参加と中山間村農家民宿泊の体験から

大野隆造

おおのりゅうぞう

環境心理行動学の観点から都市・建築と人間の心理・行動との関わりについて研究。アジア各地でフィールド調査研究も行っている。

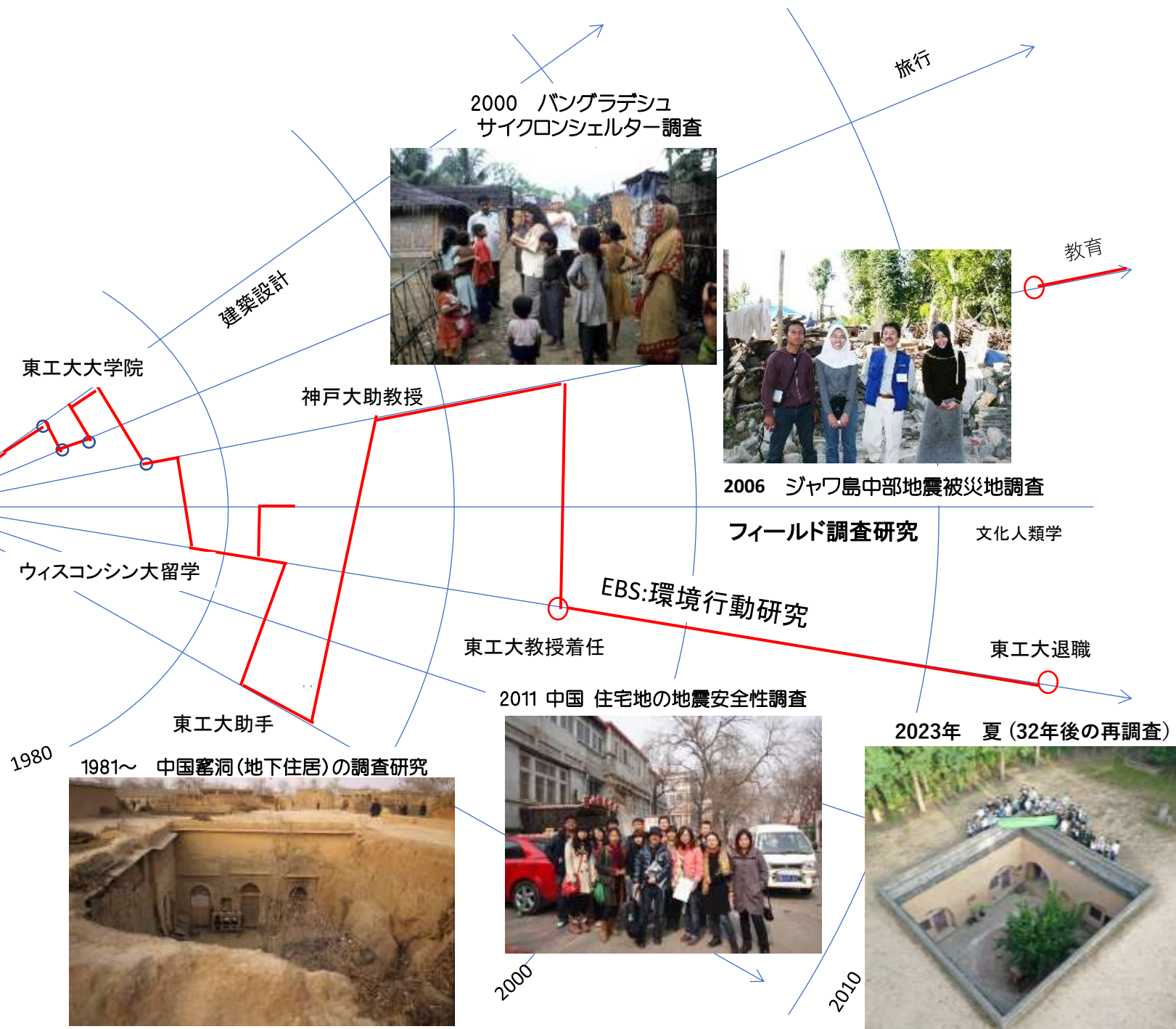
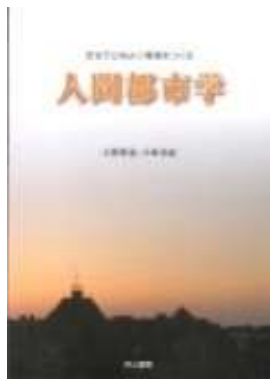
略歴

- 1972. 3 東工大工学部建築学科卒業
- 1980. 8 ウィスコンシン大大学院修士課程修了
- 1982. 3 東工大大学院博士課程建築学専攻修了
- 1983. 4 東工大工学部助手
- 1986. 4 神戸大学教養部助教授
- 1995. 4 東工大大学院教授
- 2015. 4 東工大定年退職・名誉教授

その後、放送大学・東京芸術大学・大連理工大学・東北師範大学・西安交通大学などで非常勤講師を務める

著書 『人間都市学』
井上書院 (2011)

『都市・建築デザインのための
人間環境学』
日本建築学会編 (2022)



■ 『見守りをデザインする』 を読んで教えられたいいくつかのポイント(1)

見守り支援機器の功罪

かくれた
見守られ対象

場所	機器	メリット	デメリット
Ch2 近隣・地域	GPS、携帯電話	保護者の安心感⇒移動自由性を拡大を許容 移動自由性拡大⇒子どもの心身の健康を育む	異変にすぐ対応できない 実際に居る場所に無関心になる
Ch3 障害者支援施設	見守り支援機器	夜勤職員の見回りの効率化 夜勤職員の突発事象の際のストレスの緩和 入居者の睡眠が邪魔されない 睡眠データ記録で支援状況確認	
Ch4 高齢者施設	見守り支援機器	夜間の見回りの廃止 入居者の睡眠が邪魔されない 入居者の急変時に対応する準備ができる モニタリングデータ記録で支援状況確認	直接接触の機会減少⇒コミュニケーション減 一方向の見守りの非対称性が強化される
Ch5 PFI刑務所	遠隔監視	効率的で厳重な監視が可能 受刑者に主体性を持ちつつ自制的行動を促す	
Ch7 まち	監視カメラ	犯罪の抑制	プライバシー・監視されることの慣れ 無意識のうちに行動を制限・規定
Ch8 賃貸マンション	見守りシステム	不審死のリスク回避	

→ 夜勤職員

→ 介護職員

→ 大家さん

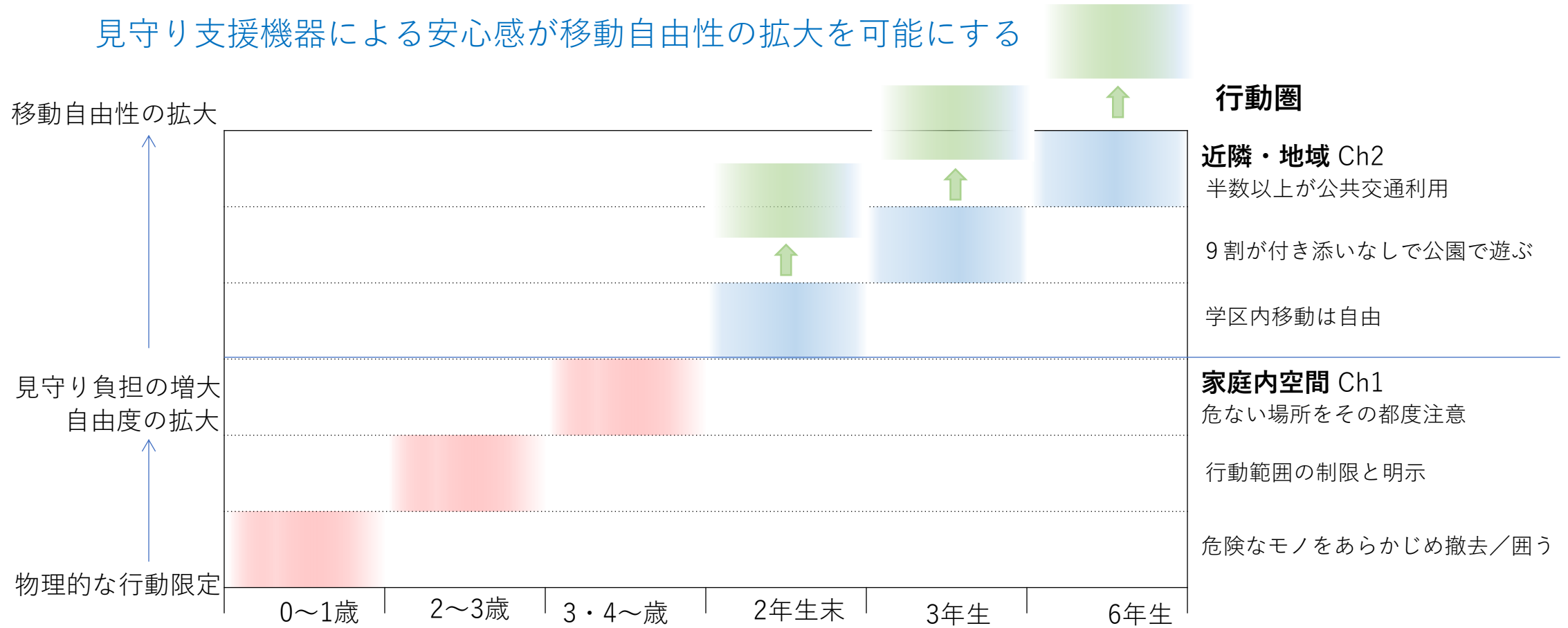
* PFI (Private Finance Initiative) : 公共施設等の建設・維持管理・運営等において民間の資金やノウハウを活用する手法

* Ch8: 座談会

■ 『見守りをデザインする』 を読んで教えられたいくつかのポイント(2)

見守りのあり方の経時的変化

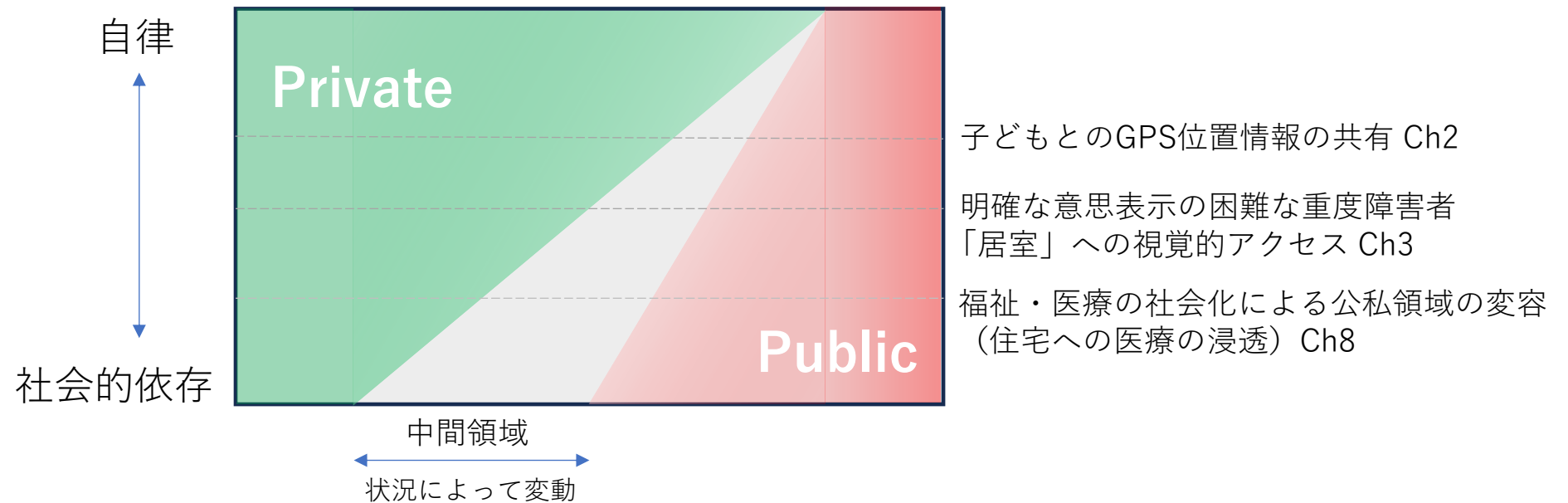
見守り支援機器による安心感が移動自由性の拡大を可能にする



子どもの許容される行動圏の経時変化

■ 『見守りをデザインする』 を読んで教えられたいいくつかのポイント(3)

見守りとプライバシー／「公私の領域」のとりえ方



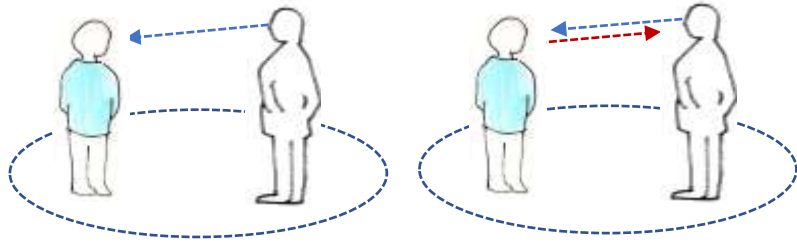
社会的依存度が高いほど、公私の境界が固定的でなくなる

■ 『見守りをデザインする』 を読んで教えられたいくつかのポイント(4)

見守りの「主体」と「客体」のさまざまな関係

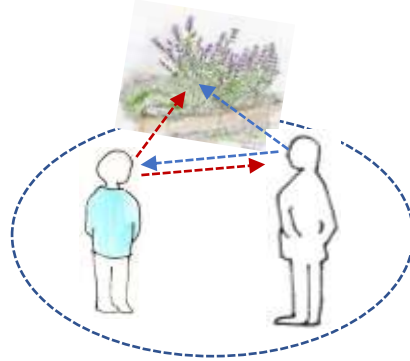
ある瞬間の「見る・見られる」の視覚的關係

焦点視
Focal vision



一方向の見守り

主客の逆転: 「介護者が見守っている」
ことを高齢者は見守っている Ch4



一緒に見守る共同注意 Ch4
(三項関係)

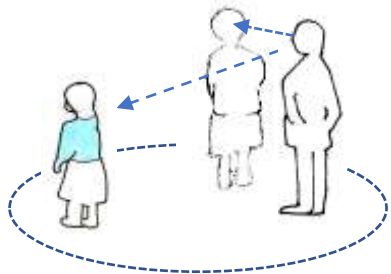
時間的な幅をもった体験による場所の認知

環境視
Ambient vision



人が「見る」のではなく
「居る」ことで安心できる
場所と感じられる Ch7

周辺視
Peripheral vision

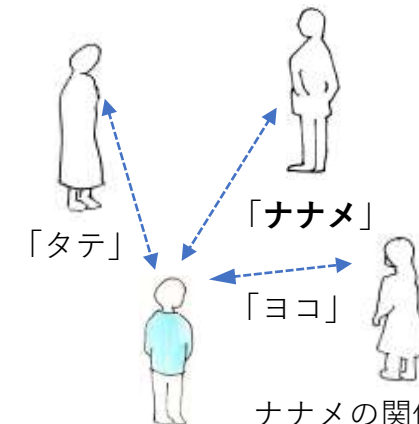


「ながら」見守り
見守られる側の自主・自律

見守り支援機器によるつながり 空間的分離



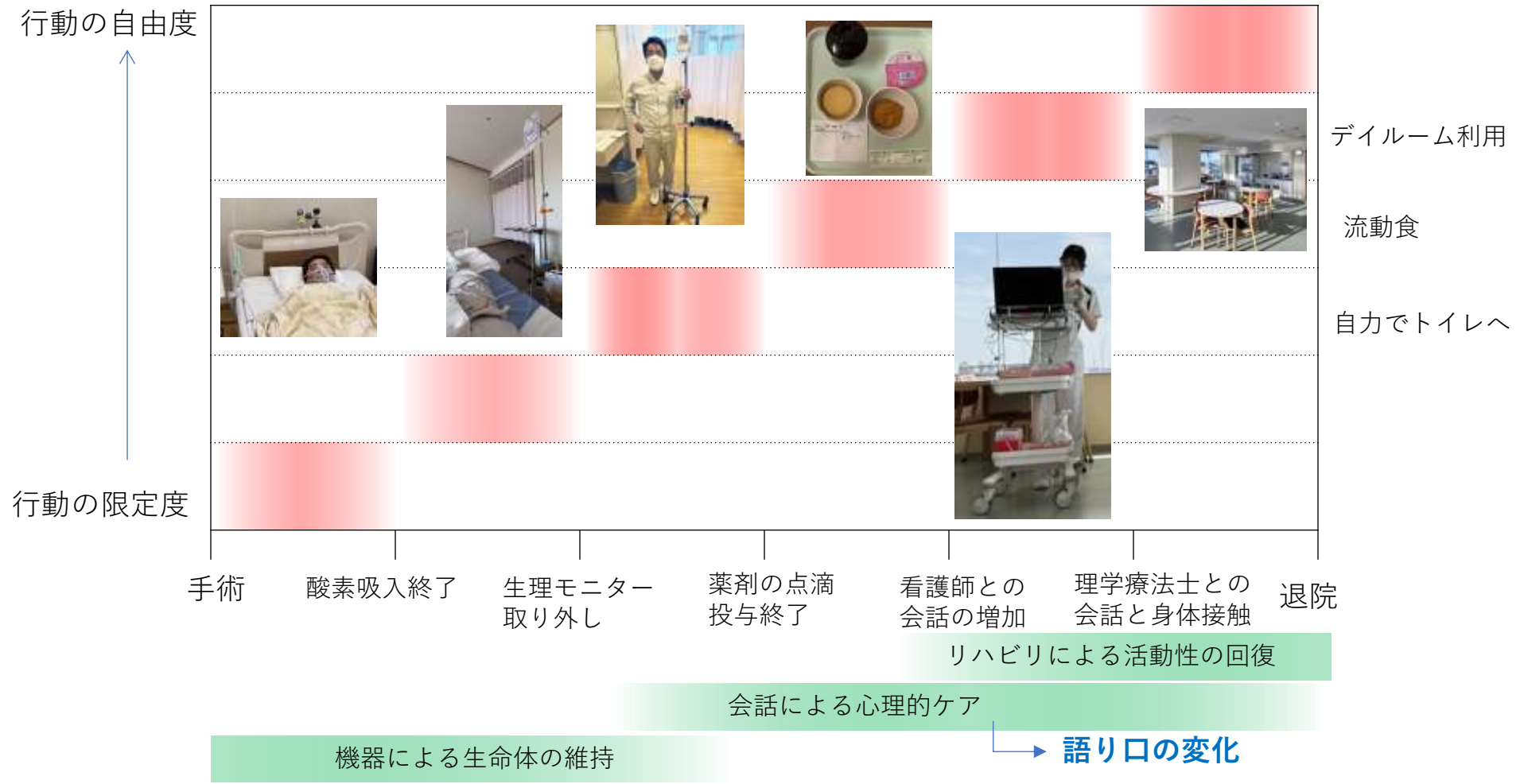
「主体」と「客体」の人間関係



ナナメの関係が子どもに自主的・
自律的行動を促す Ch5

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から（1）

時間経過に伴う「^{みまも}看護り」のかたちの変化：最近の入院体験から



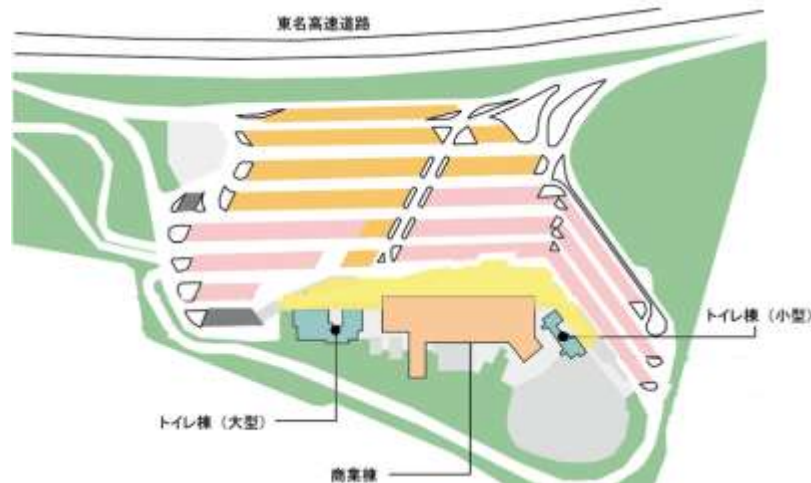
手術後の時間経過に伴う「看護り」の変化

見守る対象の変化に応じて見守り方も変える必要がある！

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から（2）

性的マイノリティの見守りとプライバシー： 男女共用トイレの適正配置の検討から

- 高速道路サービスエリアのトイレの配置計画に関わる
- 従来のトイレ棟と商業を分離した配置から合体した配置へ
- トイレ入口まわりのデザインの検討
- LGBTQ+による利用を考慮した共用トイレの設置の普及



従来のトイレ棟と商業を分離した配置



(作画：千葉大学 鈴木弘樹研究室)
トイレ棟と商業を合体した配置



共用トイレを伝えるNHKの朝のニュース

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から（2）

男女共用トイレの適正配置の検討

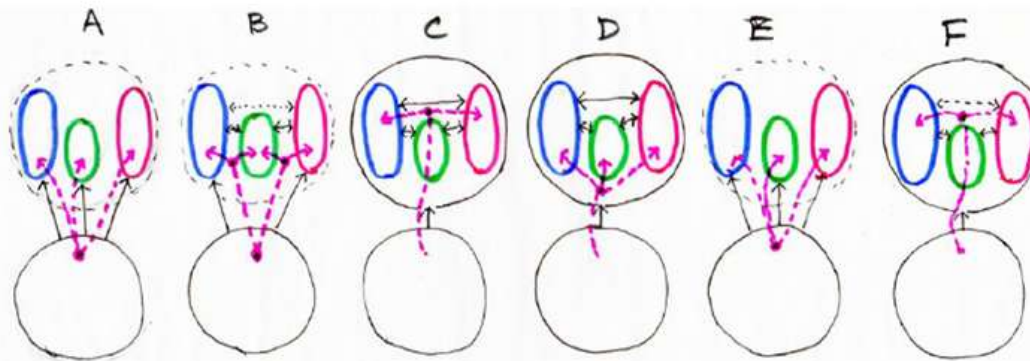
- 視線と動線の観点から共用トイレの位置を検討
- 「利用を知られたくない」と「自然監視による安全性」のジレンマ



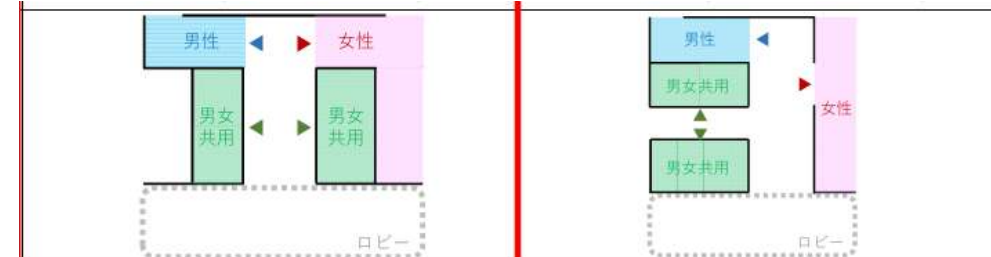
マイノリティの「非二元的」公私の境界

配置の検討例

- 男子トイレ
- 共用トイレ
- 女子トイレ



← 視線 ← 動線 ● 選択位置



From	To	男子トイレ利用者	女子トイレ利用者	共用トイレ利用者	From	To	男子トイレ利用者	女子トイレ利用者	共用トイレ利用者
男子トイレ利用者	男子トイレ利用者		× ₃	× ₁	男子トイレ利用者	男子トイレ利用者		○ ₃	△ ₁
女子トイレ利用者	男子トイレ利用者	× ₃		× ₁	女子トイレ利用者	男子トイレ利用者	○ ₃		△ ₁
共用トイレ利用者	男子トイレ利用者	△ ₁	△ ₁		共用トイレ利用者	男子トイレ利用者	△ ₁	△ ₁	
非利用者（公衆）	男子トイレ利用者	○ ₁ × ₂	○ ₁ × ₂	○ ₁ × ₂	非利用者（公衆）	男子トイレ利用者	○ ₁ △ ₂	○ ₁ △ ₂	○ ₁ △ ₂

Between	男子トイレ利用者	女子トイレ利用者	共用トイレ利用者	Between	男子トイレ利用者	女子トイレ利用者	共用トイレ利用者
男子トイレ利用者		× ₂	○ ₃	男子トイレ利用者		○ ₂	○ ₃
女子トイレ利用者	× ₂		○ ₃	女子トイレ利用者	○ ₂		○ ₃
共用トイレ利用者	× ₁	× ₁		共用トイレ利用者	△ ₁	△ ₁	

- 各トイレ入口は外部からは視認できず、利用者のプライバシーは確保される
- その他評価項目（自然監視、見合い、動線の重複、入口近さ、誘導）においては全て低評価となる

- 男女トイレ入口の外部からの視認性（自然監視）はやや劣るが、プライバシーの観点では優れた配置となる
- 男女および共用トイレの選択位置までの動線が重なる（選択位置から分離）ため、十分な通路幅を確保し配慮する
- その他評価項目においては概ね高評価となる

評価要素	評価項目	評価内容	高評価 ○	低評価 ×
視線	1.プライバシー	トイレ利用を知られること	知られない	知られる
	2.自然監視	安全のための「見守り」	自然監視がある	自然監視がない
	3.見合い	異性の他者との視線交錯による気まずさ	視線交錯がない	視線交錯がある
動線	1.重なり	異性の他者による追従、接近、待ち行列時の交錯	重なりがない	重なりがある
	2.入口の近さ	防犯安全性（男女の入口の距離）	入口が離れている	入口が近い
	3.誘導	分岐点での誘導（判断）の難易	誘導が易しい	誘導が難しい

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から（3）

過疎空間における「見守り」： 農村計画学会参加と中山間村農家民宿泊の体験

雨宮護氏による農村計画学会企画セッション

日本における「農村犯罪学」の可能性



自然監視が困難な過疎空間における見守りは？

- 海外の「農村犯罪学」ジャーナル



- 農山村地域における犯罪と対策の実態報告
- 犯罪はもともと都市の問題
- 都市の環境デザインを通じた防犯の理論は農村に適用可能か？



農村計画学会大会@山形大学の企画セッションの様子

■見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から（3）

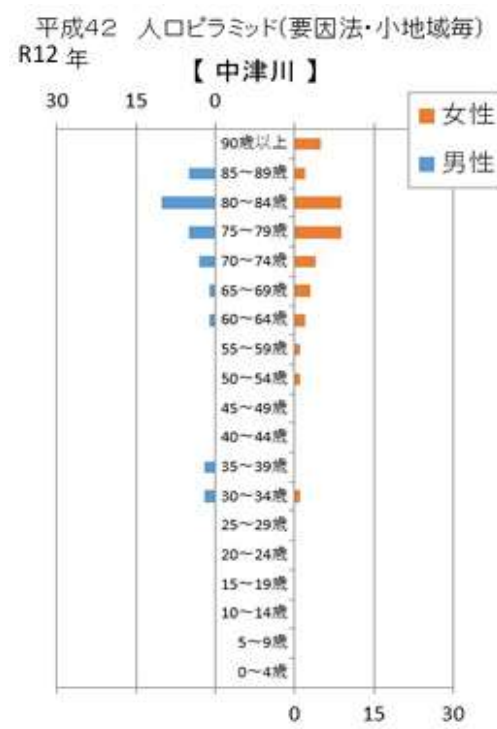
過疎空間における「見守り」：中山間村農家民宿泊の体験

人に見守られなくなった棚田など中山間地の廃村は大きな災害を引き起こしかねないことを実感した。

「人新生」で変容した自然は「見守り」が必要！



プレツアーで訪れた飯豊町



山間地区の人口ピラミッド



廃校となった小中学校の校庭に残る二宮金次郎像

まとめ

■ 『見守りをデザインする』を読んで教えられたいいくつかのポイント

- 1) 見守り支援機器の功罪 ⇒ かくれた見守られ対象
- 2) 見守りのあり方の経時的变化 ⇒ 子どもの許容される行動圏の変化
- 3) 見守りとプライバシー／「公私の領域」のとらえ方 ⇒ 社会的依存度と公私の境界
- 4) 見守りの「主体」と「客体」のさまざまな関係 ⇒ 視覚的／場の認知／空間的分離／人間関係

■ 見守りを検討すべきいくつかの場面：個人的な体験から

- 1) 時間経過に伴う「看護り」のかたちの変化：最近の入院体験から
⇒ 見守る対象の変化に応じた見守り方
- 2) 性的マイノリティの見守りとプライバシー：男女共用トイレの適正配置の検討から
⇒ マイノリティの公私の境界
- 3) 過疎空間における「見守り」：農村計画学会参加と中山間村農家民宿泊の体験から
⇒ 「人新生」で変容した自然の「見守り」